

12/16 朝日

論説

2021・12・16



全容を徹底解明せよ

国交省統計不正

国土交通省第一事務官が毎月公表する建設統計において、データを虚偽操作していた。黒田文雄首相は国際化等の課題を認める「再建防止」を表明した。政策の実現となる統計の不適切な処理で事態は深刻だ。真相の徹底解明を求めるべし。

書き換えが発覚したのは、「建設工費受注動向統計調査」だ。建設業者の受注を詳細に把握した結果

統計が意図的に改められていて

いる。

たのならGDPとの連携性は保ら
く。首相はひじりに影響はないとい
うことがあげ入れがたい。過去
のGDP数値の再点検が必要だ。

五十三ある建設統計はいずれも

政策立案の指標となる極めて重要な

データである。その算出過程

で不正があったとすれば、間違つ

た根拠に基づく政策が行われた

といいかねない。

統計作業でデータ自体が書き

換えられていた。二〇一八年発覚

の建設統計毎回四割が統計

不正では、必要な全数調査を怠っ

ていたもののデータに手を加えた

事案はなかった。次回は数

個の統計作業でも建設統計が発覚

しておらず不正の根は深い。

建設統計不正なら本機関は政府は

統計全体を範囲しなければだ。だが

国交省でのやの間も不適切な処理

が行われていたことになる。

国交省は統計検査院の指導を受

けて今年四月から不適切処理や虚偽

記入などの問題を公表し始めた。

なぜかの表示があったのか。なぜ

見直されたのか。いつ始めて、

やがて結果を公表すべきだった。

今回の問題は統計が認められる事

じ

統計作業で虚偽操作

が行われたことによる。

統計作業で虚偽操作

が行われた人物も公表され

る。建設統計全般から改めて虚

偽操作が行われたことが

判明。疑惑があれば国際的な信頼

損失がある。調査では、

統計

が虚偽

操作

が行われた問題だ。

建設統計は正確であることが前

提だ。疑惑があれば国際的な信頼

損失がある。虚偽操作の確認の

方法がある唯一の方法である

といふが虚偽操作が行われたこと